

令和6年度

外部講師を活用したがん教育等現代的な健康課題理解増進事業 事業成果報告書

【外部講師を活用して実施するがん教育の推進に係る取組】

1 事業の具体的内容について

(1) 自治体における取組

① 協議会について

1. 構成員（合計18人）

令和6年度福岡県がん教育推進委員会

県医師会の医師1人（乳腺外科）、大学教授2人（がん専門内科医1人含む）、保健所長（保健監）1人、県保健医療介護部がん感染症疾病対策課1人、私学振興課1人、がん患者団体代表1人、県小学校体育研究会副会長（学校長）1人、県中学校保健体育研究会副会長（学校長）1人、県高等学校保健体育研究部会会長（学校長）1人、県高校教育課指導主事1人、県義務教育課指導主事1人、教育事務所指導主事1人、事務局（体育スポーツ健康課）5人

2. 開催時期、検討内容

第1回推進委員会：令和6年10月7日（月）

【説明】 ・ 令和5年度がん教育推進事業の報告
 ・ 令和6年度がん教育推進事業について

【協議】 ・ 今後のがん教育に充実に向けて
 （早期予約制度、授業参観制度、外部講師派遣事業の周知方法）

第2回推進委員会：令和7年2月5日（水）

【報告】 ・ 令和6年度がん教育推進事業の報告（外部講師派遣事業、がん教育指導者研修会）

【協議】 ・ 学校における外部講師を活用したがん教育の推進について
 （授業参観制度、発達段階に応じたがん教育）

② 教育委員会としての取組

がん教育指導者研修会

- 期日：令和6年10月24日（木） 参集による研修【参加人数：149名】
- 目的：●がん教育についての指導者の理解を深め、がん教育の充実に資する。
 ●がん教育指導資料の内容について普及・啓発を図る。
- 内容：●講演（模擬授業形式）
 （NPO法人がんサポーターズ 副理事長 中原 美夏 氏 他看護師1名）
 ●学識経験者による講演
 （新潟医療福祉大学 教授 杉崎 弘周 氏）
- 参加者：教職員及びがん教育関係者
 ※県立学校は令和3～5年度の当研修受講者を除き各校1名参加

(2) 外部講師を活用したがん教育の授業

公立小学校 14 校、公立中学校 10 校、県立高校 1 校、私立中・高等学校 7 校の計 32 校に対し、外部講師を派遣することができた。

	学校名	対象 学年	授業 時数	授業科目等	外部講師
1	大刀洗町立大堰小学校	教職員	2	教職員研修会	がん経験者
2	須恵町立須恵中学校	中3	2	保健体育科・保健分野	がん経験者、看護師
3	飯塚市立穂波西中学校	中2	1	道徳	がん経験者、看護師
4	糸島市立前原中学校	中2	2	保健体育科・保健分野、道徳	がん経験者、看護師
5	糸島市立東風小学校	小6	2	体育科・保健領域	がん経験者、看護師
6	古賀市立古賀中学校	中2	2	学級活動	がん経験者、看護師
7	古賀市立古賀北中学校	中2	2	学級活動	がん経験者、看護師
8	飯塚市立上穂波小学校	小6	2	体育科・保健領域	がん経験者、看護師
9	古賀市立古賀東中学校	中2	2	保健体育科・保健分野	がん経験者、看護師
10	直方市立上頓野小学校	PTA	2	PTA研修会	がん専門医
11	県立鞍手高校（定時制）	高1 ～ 高4	2	ホームルーム活動	がん専門医
12	豊前市立山田小学校	小6	2	体育科・保健領域	がん専門医
13	飯塚市立大分小学校	小6	2	学級活動	がん経験者、看護師
14	宇美町立宇美小学校	小3	2	総合的な学習の時間	がん経験者、看護師
15	那珂川市立那珂川中学校	中2	2	総合的な学習の時間	がん経験者、看護師
16	新宮町立新宮中学校	中2	2	保健体育科・保健分野	がん経験者、看護師
17	行橋市立延永小学校	小5 小6	2	体育科・保健領域	がん経験者、看護師
18	古賀市立青柳小学校	小6	2	体育科・保健領域	がん経験者、看護師

19	春日市立春日南小学校	小5	2	学校行事	がん経験者、看護師
20	八女市立黒木西小学校	小5 小6	2	体育科・保健領域	がん経験者、看護師
21	古賀市立小野小学校	小6	3	体育科・保健領域、学校行事	がん経験者、看護師
22	古賀市立花鶴小学校	小6	2	体育科・保健領域	がん経験者、看護師
23	糸島市立福吉小学校	小6	2	学級活動	がん経験者、看護師
24	宇美町立宇美南中学校	中2	2	学校行事	がん経験者、看護師
25	飯塚市立二瀬中学校	中2	2	総合的な学習の時間	がん経験者、看護師
26	博多女子中学校 高等学校	中1 高1	2	学校行事 総合的な探求の時間	がん経験者、看護師
27	大牟田高校	高1	2	学校行事	がん経験者、看護師
28	誠修高校	高1 高2 高3	2	ホームルーム活動 学校行事 総合的な探求の時間	がん経験者、看護師
29	福岡海星女子学院高校	高1	2	学校行事	がん経験者
30	常磐高校	高2	2	ホームルーム活動	がん経験者、看護師
31	飯塚高校	高3	2	ホームルーム活動	がん経験者、看護師
32	つくば開成福岡高校	高3	2	学校行事	がん経験者、看護師

(3) 外部講師を活用したがん教育の授業の具体

<p>那珂川市立那珂川中学校（学年集会形式） 令和6年11月27日</p> <p>○開催の経緯 ・令和5年度「がん教育を通じた大切な人へのメッセージカード」によるがん検診受診勧奨事業（がん疾病対策課）により外部講師を活用 ・令和6年度は本事業で実施</p> <p>○対象 2年生</p> <p>○講師 NPO法人がんサポート 北山 由美 氏 福岡徳洲会病院 看護師 内山 睦子 氏</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>時間</th> <th>講話の内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>約20分</td> <td>がんができるしくみ など</td> </tr> <tr> <td>約20分</td> <td>がん経験者による体験談</td> </tr> <tr> <td>約5分</td> <td>質疑応答</td> </tr> </tbody> </table> 	時間	講話の内容	約20分	がんができるしくみ など	約20分	がん経験者による体験談	約5分	質疑応答	<p>直方市立上頓野小学校（PTA研修会） 令和6年11月29日</p> <p>○開催の経緯 北九州教育事務所管内校長研修会で当事業が紹介され活用</p> <p>○対象 直方市PTA連合会 母親委員会 （直方市内小中学校15校から50名弱が参加）</p> <p>○講師 福岡県医師会 理事 法人北九州病院 北九州総合病院 院長 永田 直幹氏</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>時間</th> <th>講義内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>約30分</td> <td>がんができるしくみ など</td> </tr> <tr> <td>約20分</td> <td>治療法について</td> </tr> <tr> <td>約20分</td> <td>質疑・応答</td> </tr> </tbody> </table> 	時間	講義内容	約30分	がんができるしくみ など	約20分	治療法について	約20分	質疑・応答
時間	講話の内容																
約20分	がんができるしくみ など																
約20分	がん経験者による体験談																
約5分	質疑応答																
時間	講義内容																
約30分	がんができるしくみ など																
約20分	治療法について																
約20分	質疑・応答																

2 事業の達成度について

(1) がん教育推進委員会

外部講師を活用したがん教育を推進するための具体的方策について協議した。

【成果】

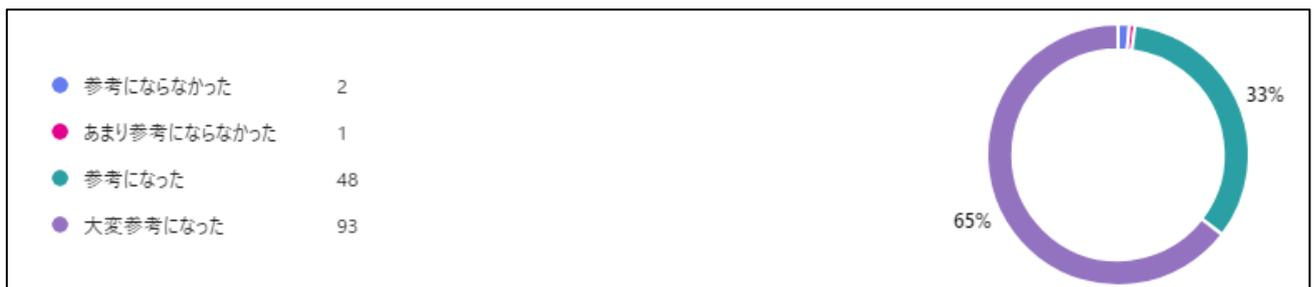
- ・各学校における年間指導計画に位置付けやすくするため、前年度のうちに講師の活用について申請できる仕組みとしての早期予約制度について、令和7年度からの具体的取組を明確にすることができた。
- ・活用校の増加に向けて地域の実態調査を実施し、外部講師活用の拡大につなげる上で鍵となる事業の周知機会と周知方法を整理し、情報を共有することができた。
- ・公開授業の実施に向けた課題を明確にし、令和7年度以降の公開授業実施に向けた方向性を共有することができた。
- ・高等学校における外部講師を活用したがん教育の推進にむけて、発達段階に応じたがん教育の実施に対する課題を整理することができた。

(2) がん教育指導者研修会

がん教育についての指導者の理解を深め、がん教育の充実に資するとともに、本県作成のがん教育指導資料の内容について普及・啓発を図ることを目的に実施した。

【成果】

- ・外部講師を活用したがん教育における実際の授業例を模擬授業を通して体験し、外部講師を活用する良さを実感してもらうことができた。
 - ・次年度の年間指導計画への位置付けや、体育科・保健体育科をはじめとした各教科や特別活動等での実施等、カリキュラム・マネジメントの視点に基づいたがん教育の実施について協議を行い、外部講師の活用に向けた具体的な手立てを共有することができた。
- ① 演習「がん教育における外部講師を活用した授業の実際」の感想
- ・実際にがんを経験された方の話は心に響くものがあった。生徒にも聞かせたいと思った。
 - ・実際に生徒の立場になって授業を受けたことで、どういった内容を行うのか、授業の構想ができた。
 - ・実際に生徒の立場になって話を聞き、普段授業をしている教員ではなく、実際にがんを経験された方に講演をしていただくことで、生徒たちががんをより身近に感じ、印象に残ると思った。



② 講演「学校におけるがん教育の研究と実践」の感想

- ・効果的ながん教育について、他教科や特別活動とどのように連携していく必要があるか理解できた。
- ・今後の教育活動の中で、がん教育をどう取り入れていくか、また指導内容や時期などについて、詳しく学ぶ事ができた。
- ・どのようにカリキュラムに組み込むべきかについて理解が深まった。



3 今後の課題及びその取組の方向性（今回の事業により新たに見えた課題等）

【課題】

○県立学校による外部講師活用の推進

今年度、県立学校（中・高等学校・特別支援学校）での活用を8校で計画していたものの、1校のみの実施であった。公立小・中学校、私立中・高等学校を含めると、これまでで最も多い計32校での外部講師の活用数であったが、県立学校における活用数は伸びていない。

○今後の取組の方向性

① 発達段階に応じたがん教育の具体的な内容の整理

- ・これまで、看護師等によるがんの基礎的な知識の説明と、がん経験者がん経験者の声を児童生徒に伝えることを中心とした授業例をがん教育指導者研修会で紹介してきた。今後は、学校の実態に応じた外部講師による授業の展開（特に高等学校の科目「保健」の学習との関連）を促進するため、がん教育の内容を整理する。

② 県立学校に対する周知機会と周知方法の工夫

- ・年度当初に行われる県立学校長会、保健体育科主任会、保健主事研修会のほか、学校保健会など養護教諭が集まる研修会等において当事業を紹介し、外部講師の活用を促す。

③ 年間指導計画に位置付けたがん教育の推進

- ・各学校に年度初めに補助事業を案内することで、外部講師を活用したがん教育を翌年度の年間指導計画に位置付けてもらう。

④ 公開授業の実施

- ・令和7年度実践校における公開授業を計画し、活用の少ない地域や校種へ案内することで、外部講師を活用したがん教育の良さを実感してもらう。